

第1回 日中議員会議 結果概要

第1回日中議員会議は、2007年3月23日及び26日の2日間、参議院日中交流議員団（団長：松田岩夫議員）と中華人民共和国全国人民代表大会（全人代）代表団（団長：路甬祥常務委員会副委員長）の参加を得て参議院第43委員会室において開催された。

23日の会議冒頭、扇千景参議院議長、松田岩夫参議院日中交流議員団団長及び路甬祥中華人民共和国全国人民代表大会代表団団長からそれぞれあいさつがあった。

引き続き開催された第1セッションでは、「政治・安全保障」を議題として、参加者による意見交換が行われた。

26日の午前に開催された第2セッションでは「経済」を議題として、午後に開催された第3セッションでは「環境・エネルギー」を議題として、参加者による意見交換がそれぞれ行われた。

閉会にあたり、路甬祥団長及び松田岩夫団長からそれぞれあいさつがあった。

なお、王毅中華人民共和国駐日大使が第1セッションに出席した。

1. 扇千景参議院議長、松田岩夫団長及び路甬祥団長のあいさつ

（1）扇千景参議院議長のあいさつ

扇千景議長からは、日中両国が諸課題の解決のための緊密な協力と意思疎通の枠組みを築き、もってアジア地域、ひいては世界の平和と繁栄に貢献することを期待するとともに、この日中議員会議における議員同士の交流と対話を通じて、「政熱経熱」と評されるような両国関係が構築されることを望む旨のあいさつがあった。

（2）松田岩夫団長のあいさつ

松田岩夫団長からは、第1回日中議員会議において、政治・安全保障、経済及び環境・エネルギーといった議題に関し、両国代表団による活発かつ将来に向けた有意義な意見交換が行われることを祈念するとともに、日中議員会議が回を重ねて両国関係発展に寄与することを希望する旨のあいさつがあった。

（3）路甬祥団長のあいさつ

路甬祥団長からは、日本が戦後平和的に発展してきたことを評価し、かつ中国の発展が決して日本に対する脅威とはならないことを強調するとともに、来月の温家宝首相の訪日を両国関係の長期的発展のための新たなマイルストーンと位置付け、将来に向けて良好な関係を築く必要がある旨のあいさつがあった。

2. 第1セッション（議題：政治・安全保障）

日本側から、①両国の歴史認識の共有に向けて、日中の議員が相手国のメディアで意見を発信し、率直に議論できる場が必要である、②両国には政治体制の違いはあるが、地理的、文化的な面を始めとする多くの共通点を再認識することが両国関係の持続的な発展の決め手となる、③歴史認識の問題については日中歴史共同研究に委ね、その成果を受けて議員同士の議論を深めるべきであり、中国側にはこの研究成果を冷静に受け止め、歴史教育にも反映させてほしい、④過去2000年近く続いてきた友好、互惠の歴史にも目を向け、両国関係を悪化させる問題についてはお互いの心の痛みを理解した上で批判や発言をすべきである、⑤両国の若者が今後の日中関係発展の展望を持てるような環境を作るため、若者同士の交流を推進していきたい、⑥六者会合の議長国である中国には、拉致問題の解決なくして日朝国交正常化なしということを目と共に見え、支援してほしい、⑦中国は核問題をもっと真剣に考えてほしい等の意見が述べられた。

中国側からは、①現在の中日の良い関係を更に発展させていくためには、歴史問題を適切に処理しなければならない、②中日の法制度の交流は、中国の法制度の健全化にとって非常に重要なものであり、ひいては両国の経済貿易活動等の活発化にも資するものである、③中国では過去の戦争について、日本の一般国民に責任はないと子供たちに教育しており、日本が戦後平和的に発展してきたことも評価している、④中国には中日友好に関する宣伝、映画、ドラマ、本などが多数あるように、中国政府は積極的に中日関係を良くするための努力をしてきた、⑤中国の国防費は自国防衛のために支出されており、その増加も対外的に脅威を与えるものではない、⑥中国は北朝鮮の核開発に対して断固とした態度で臨む、⑦東シナ海の問題では、共同開発が中日の共通認識であり、それが現実的に解決するための一つの方法である等の意見が述べられた。

3. 第2セッション（議題：経済）

日本側から、①知的財産権保護に関する中国の制度改善を要請する、②文化面での日中両国の交流の促進が必要である、③日中の中小企業間の交流促進を図る場を検討すべきである、④日中議員会議に東アジア共同体推進委員会を設置して具体的に討議すべきである、⑤中国の輸出品に対して日本が設けている検査項目については内外無差別の原則、国民の健康を守る観点を維持しつつ検討することは重要である、⑥日中間の経済関係は脅威ではなく、ウィンウィンの関係である等の意見が述べられた。

中国側からは、①隣国と「一衣帯水」の関係を築くためには「和」が重要である、②知的財産権保護に関しては、中国も様々な国際会議にも参加し、積極的に対策を講じている、③日本は中国の市場経済の地位を認めるべきであり、中国製品に対して不

公平な措置を採ることはやめてほしい、④中国における知的財産権保護に関しては日本の制度を参考にして改善を進めている、⑤中国の輸出品に対して日本が設けている検査項目は余りにも多すぎるので改善を検討してほしい、⑥中日間の金融協力の推進が必要である、⑦中国国民の対日感情については4月の温家宝首相の訪日などにより大幅に改善すると考える、⑧いずれの途上国においても急速な成長を遂げる時期が必ずあり、中国の9%、10%といった年間成長率は正常であると考え等々の意見が述べられた。

4. 第3セッション（議題：環境・エネルギー）

日本側から、①日中双方にとって「不都合な真実」を直視して、協力関係を築いていくことが、戦略的互惠関係の典型例として両国に大きな幸いをもたらす、②我が国の公害問題という負の遺産を「他山の石」として中国は公害の実態を正しく把握し、環境保全の措置を強化してほしい、③省エネルギー、原子力を中心とする様々な面での環境対策の促進は日中両国にとってウィンウィンの領域である、④中国において自動車社会の進展による大気汚染、交通渋滞等が今後予想される場所、クリーンエネルギーを利用した公共交通の発展を検討すべきである、⑤黄砂、酸性雨の問題にも日中両国で真剣に取り組むべき、⑥環境保護に関する両国共通の客観的・標準的評価の体制作りが必要である等々の意見が述べられた。

中国側からは、①中国は「再生可能エネルギー法」を制定し、同エネルギーの利用促進を進めている、②中日両国は地球温暖化問題に関して安定した協力関係にあり、この面での協力を更に進めていきたい、③中国は環境問題を非常に重視しており様々な対策を採っているが、先進国と同様の環境目標を一気に達成することは難しい、④エネルギー問題に関しては、30年、40年先を見据えて日中両国が戦略的な角度から協力する必要がある、⑤代替エネルギーとしてバイオマスに注目しているところ、日中間での投資又は共同研究の可能性を探りたい、⑥中国は天然林の保護、植林の推進による黄砂の抑制に長期的に取り組んでいるところであり、韓国や日本ともこの黄砂の問題について協力していきたい、⑦酸性雨問題については、主な原因とである二酸化硫黄の排出削減目標の設定、新規に建設される発電所への脱硫装置整備の義務付けなどの措置を採っている、⑧省エネ・環境、経済の分野での友好的な協力を進めるために良好な政治環境が必要である等々の意見が述べられた。

5. 路甬祥団長及び松田岩夫団長のあいさつ

（1）路甬祥団長のあいさつ

路甬祥団長からは、両国の代表団が友好、実務的な雰囲気の中で率直に意見交換を行ったことを評価するとともに、関係改善のチャンスをつかまえて、両国関係が安定的、健全な発展を遂げることを期待すること、今回の会議により日中双方の理解、友好の

深化、コンセンサスの拡大という成果を収めたことに非常に満足していること等述べた上で、2回目の会合を来年中国において開催することとし、全人代常務委員会を代表して参議院代表団を招待する旨のあいさつがあった。

(2) 松田岩夫団長のあいさつ

松田岩夫団長からは、日中両国の長い歴史を見れば友好的な関係はほぼ100%であったと言ってよいこと、両国の経済関係は強固な相互補完関係にあり、また政治関係も良好でなければならないこと、環境・エネルギーの分野では両国が互いに努力すれば大きな成果を上げることができること等の発言があったほか、両国代表団が文字通り胸襟を開いて、率直にかつ内容豊かな議論をすることができたことを参加者と共に称えたい旨述べるとともに、2回目は一層有意義な会合を持つことを誓い合いたい旨のあいさつがあった。